

青森県経済統計報告

平成 28 年 8 月 5 日

企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（平成 28 年 7 月 1 日現在）…………… 1

| | |
|------|------------------------------------|
| 県人口 | 1,295,847 人（対前月 803 人減少） |
| 自然動態 | 641 人減少（出生者数 689 人、死亡者数 1,330 人） |
| 社会動態 | 162 人減少（転入者数 1,126 人、転出者数 1,288 人） |

2 本県の経済動向（平成 28 年 5 月・6 月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、緩やかに持ち直している。
景況感（青森県景気ウォッチャー調査結果）をみると、現状判断DIは前期比2.5ポイント増加の48.3となり、先行き判断DIは現状判断DIとほぼ同水準の48.0となった。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 …… 2
・平成 28 年 5 月の**青森県鉱工業生産指数**（平成 22 年=100）は、季節調整済指数が 98.8 で、前月比 16.6%の低下となり、5 カ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は 99.6 で、前年同月比 8.5%の低下となり、4 カ月ぶりに前年同月を下回った。
- (2-2) 雇用労働 …… 3
・平成 28 年 5 月の**定期給与**は 211,628 円で前年同月比 1.3%減となった。**総実労働時間**は 144.0 時間で前年同月比 2.7%減、**所定外労働時間**は 9.6 時間で前年同月比 16.5%減となった。
・平成 28 年 6 月の**有効求人倍率**（季節調整値）は 1.07 倍で、前月を 0.01 ポイント上回った。
・**雇用保険受給者実人員**は 6,729 人で、前年同月比 11.3%の低下となった。
- (2-3) 物 価 …… 5
平成 28 年 6 月の**青森市消費者物価指数**（平成 22 年=100）は、総合指数が 102.8 となり、前月と同水準、前年同月比 0.3%の下落となった。また、食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は 101.7 となり、前月比 0.1%の下落、前年同月比 0.9%の上昇となった。
- (2-4) 個人消費 …… 6
・平成 28 年 6 月の**百貨店・スーパー販売額**は、全店舗ベースが 133 億円で前年同月比 0.0%減となり、2 カ月連続で前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比 1.4%減となり、4 カ月連続で前年同月を下回った。
・平成 28 年 6 月の軽自動車を含めた**乗用車新車登録・届出台数**は 3,473 台で、前年同月比 7.0%減となり、3 カ月ぶりに前年同月を下回った。
・平成 28 年 6 月の**観光入込客数**は、主な観光施設が 902 千人で前年同月比 9.9%増となり、3 カ月ぶりに前年同月を上回った。また、主な宿泊施設は 135 千人で前年同月比 4.5%増となり、2 カ月ぶりに前年同月を上回った。
- (2-5) 建 設 …… 7
・平成 28 年 6 月の**新設住宅着工戸数**は 610 戸で、前年同月比 16.6%増となり、5 カ月連続で前年同月を上回った。
・平成 28 年 6 月の**公共工事請負額**は 218 億 1,400 万円で前年同月比 25.0%増となり、2 カ月ぶりに前年同月を上回った。
- (2-6) 企業倒産 …… 8
平成 28 年 6 月の**企業倒産**は、件数は 5 件で前年同月比 66.7%増となった。負債総額は 15 億 9,200 万円で前年同月比 270.2%増となった。

（3）景気動向指数CI（平成 28 年 5 月分）…………… 9

| | |
|------|-------------------------------------|
| 先行指数 | 98.0（前月を 2.8 ポイント下回り、3 カ月ぶりに下降した） |
| 一致指数 | 139.8（前月を 20.7 ポイント下回り、3 カ月ぶりに下降した） |
| 遅行指数 | 122.1（前月を 0.3 ポイント下回り、6 カ月ぶりに下降した） |

（4）青森県景気ウォッチャー調査（平成 28 年 7 月期）…………… 10

| | |
|--------------------|-------------------------------------|
| 3 カ月前と比べた景気の現状判断DI | …48.3（前期比 2.5 ポイント増、4 期連続で 50 を下回る） |
| 3 カ月後の景気の先行き判断DI | …48.0（前期比 3.8 ポイント減、3 期ぶりに 50 を下回る） |

1 青森県の推計人口（平成28年7月1日現在）

【概況】

平成28年7月1日現在の本県推計人口は、1,295,847人で、前月に比べ803人の減少となった。

○自然動態

出生者数が689人、死亡者数が1,330人で、641人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1,126人、転出者数が1,288人で、162人の減少となった。

総人口の推移

(単位：人)

| | 総数 | 性別 | | 対前月増減率 | 増減数 | 自然増減数 | 自然増減数 | | 社会増減数 | 県外からの転入者数 | 県外への転出者数 |
|-----------|-----------|---------|---------|---------|---------|-------|-------|-------|--------|-----------|----------|
| | | 男 | 女 | | | | 出生者数 | 死亡者数 | | | |
| 昭 45.10.1 | 1,427,520 | 685,477 | 742,043 | - | 10,929 | - | - | - | - | - | - |
| 50.10.1 | 1,468,646 | 707,232 | 761,414 | - | 41,126 | - | - | - | - | - | - |
| 55.10.1 | 1,523,907 | 735,444 | 788,463 | - | 55,261 | - | - | - | - | - | - |
| 60.10.1 | 1,524,448 | 731,439 | 793,009 | - | 541 | - | - | - | - | - | - |
| 平 2.10.1 | 1,482,873 | 704,758 | 778,115 | - | -41,575 | - | - | - | - | - | - |
| 7.10.1 | 1,481,663 | 704,189 | 777,474 | - | -1,210 | - | - | - | - | - | - |
| 12.10.1 | 1,475,728 | 702,573 | 773,155 | - | -5,935 | - | - | - | - | - | - |
| 17.10.1 | 1,436,657 | 679,077 | 757,580 | - | -39,071 | - | - | - | - | - | - |
| 22.10.1 | 1,373,339 | 646,141 | 727,198 | - | -63,318 | - | - | - | - | - | - |
| 27.7.1 | 1,309,272 | 614,260 | 695,012 | -0.055% | -721 | -607 | 750 | 1,357 | -114 | 1,257 | 1,371 |
| 27.8.1 | 1,308,552 | 614,004 | 694,548 | -0.055% | -720 | -620 | 724 | 1,344 | -100 | 1,695 | 1,795 |
| 27.9.1 | 1,307,723 | 613,658 | 694,065 | -0.063% | -829 | -669 | 713 | 1,382 | -160 | 1,670 | 1,830 |
| 27.10.1 | 1,308,649 | 614,608 | 694,041 | - | -693 | -592 | 736 | 1,328 | -101 | 1,521 | 1,622 |
| 27.11.1 | 1,307,847 | 614,210 | 693,637 | -0.061% | -802 | -774 | 707 | 1,481 | -28 | 1,447 | 1,475 |
| 27.12.1 | 1,307,015 | 613,840 | 693,175 | -0.064% | -832 | -758 | 745 | 1,503 | -74 | 1,057 | 1,131 |
| 28.1.1 | 1,306,105 | 613,420 | 692,685 | -0.070% | -910 | -782 | 724 | 1,506 | -128 | 1,052 | 1,180 |
| 28.2.1 | 1,304,977 | 612,833 | 692,144 | -0.086% | -1,128 | -889 | 777 | 1,666 | -239 | 912 | 1,151 |
| 28.3.1 | 1,303,776 | 612,287 | 691,489 | -0.092% | -1,201 | -881 | 662 | 1,543 | -320 | 1,088 | 1,408 |
| 28.4.1 | 1,297,762 | 609,149 | 688,613 | -0.461% | -6,014 | -740 | 743 | 1,483 | -5,274 | 3,828 | 9,102 |
| 28.5.1 | 1,297,549 | 609,213 | 688,336 | -0.016% | -213 | -715 | 711 | 1,426 | 502 | 3,450 | 2,948 |
| 28.6.1 | 1,296,650 | 608,687 | 687,963 | -0.069% | -899 | -731 | 707 | 1,438 | -168 | 1,254 | 1,422 |
| 28.7.1 | 1,295,847 | 608,327 | 687,520 | -0.062% | -803 | -641 | 689 | 1,330 | -162 | 1,126 | 1,288 |

6月中の人口動態の推移

(単位：人)

| 年月 | | 平 18.6 | 19.6 | 20.6 | 21.6 | 22.6 | 23.6 | 24.6 | 25.6 | 26.6 | 27.6 | 28.6 |
|------|-----------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 自然動態 | 出生者数 | 910 | 812 | 862 | 780 | 879 | 853 | 692 | 683 | 711 | 750 | 689 |
| | 死亡者数 | 1,189 | 1,173 | 1,219 | 1,318 | 1,289 | 1,259 | 1,271 | 1,229 | 1,283 | 1,357 | 1,330 |
| | 自然増減数 | -279 | -361 | -357 | -538 | -410 | -406 | -579 | -546 | -572 | -607 | -641 |
| 社会動態 | 県外からの転入者数 | 1,345 | 1,233 | 1,366 | 1,468 | 1,281 | 1,506 | 1,270 | 1,218 | 1,247 | 1,257 | 1,126 |
| | 県外への転出者数 | 1,807 | 1,742 | 1,715 | 1,477 | 1,342 | 1,479 | 1,236 | 1,273 | 1,441 | 1,371 | 1,288 |
| | 社会増減数 | -462 | -509 | -349 | -9 | -61 | 27 | 34 | -55 | -194 | -114 | -162 |
| 増減数計 | | -741 | -870 | -706 | -547 | -471 | -379 | -545 | -601 | -766 | -721 | -803 |

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成22年11月1日から平成27年9月1日までの人口は平成22年国勢調査人口（確定値）を基礎に推計している。

※3 平成27年10月1日現在の人口は、平成27年国勢調査人口速報集計結果（総務省統計局 平成28年2月26日）を用いているため、9月1日現在の推計人口に9月中の増減数を加えた数値とは一致しない。

※4 平成27年11月1日以降の人口は、平成27年国勢調査人口速報集計結果（総務省統計局 平成28年2月26日）を基礎に推計している。

※5 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※6 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

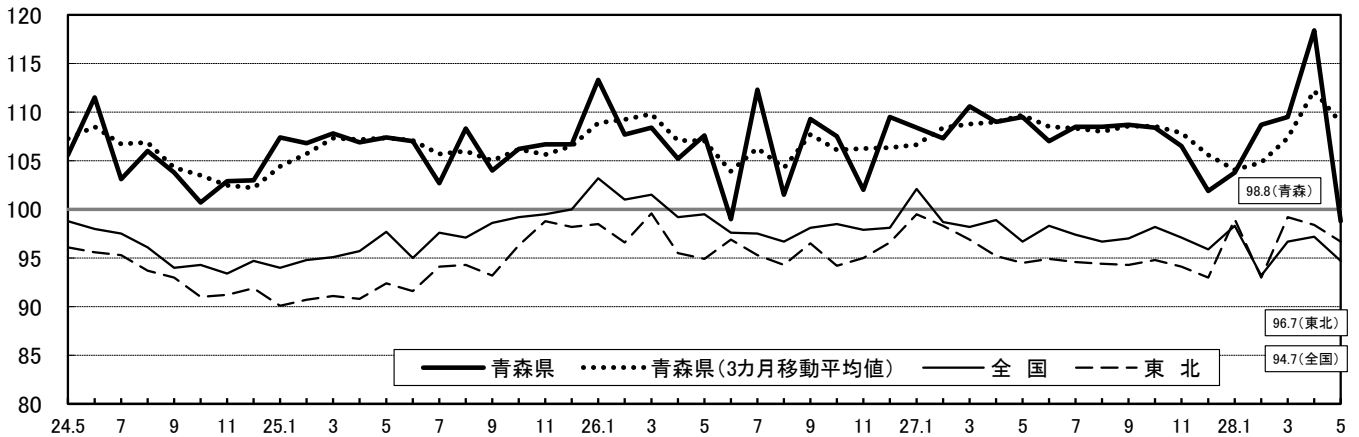
(2-1) 生産動向

平成28年5月の青森県鉱工業生産指数(平成22年=100)は、季節調整済指数が98.8で、前月比16.6%の低下となり、5カ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は99.6で、前年同月比8.5%の低下となり、4カ月ぶりに前年同月を下回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、鉄鋼業、繊維工業、印刷業などが上昇に寄与した一方、化学工業、金属製品工業、電子部品・デバイス工業などが低下し、鉱工業全体では16.6%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

(平成22年=100)

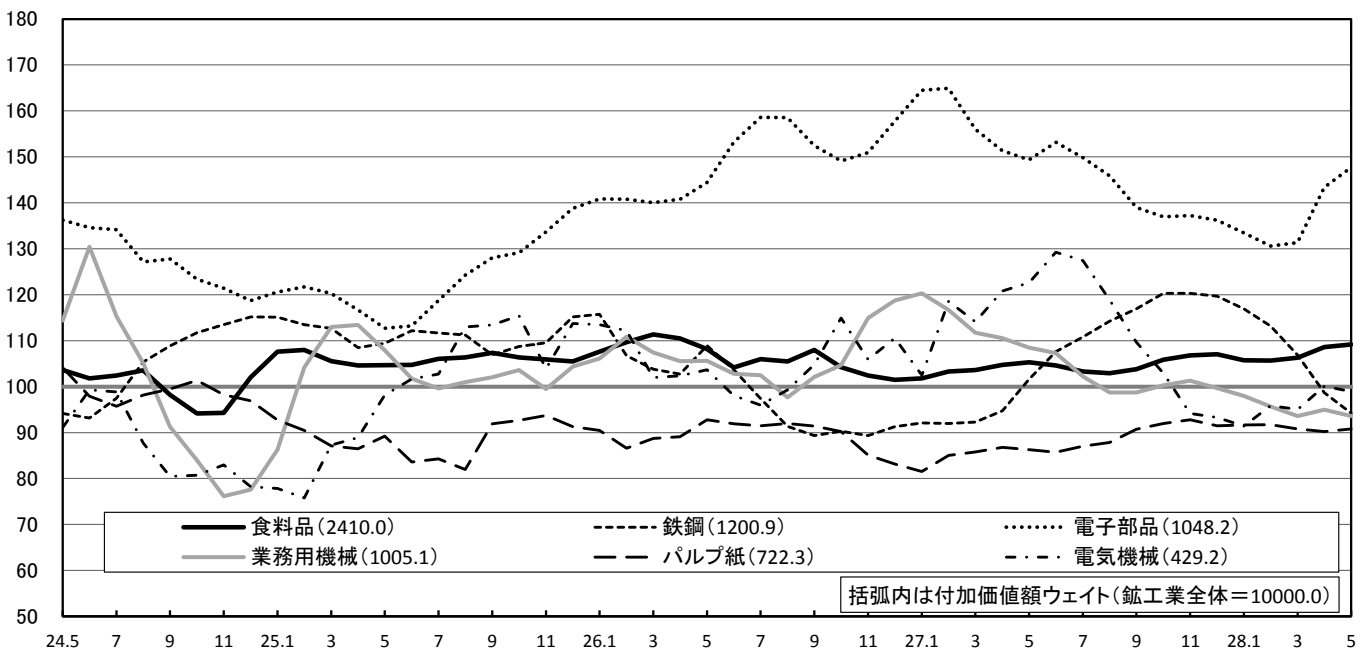


◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 -16.6%

| プラス | | | マイナス | | |
|-----------|--------|--------|-------------|--------|--------|
| 業種 | 前月比(%) | 寄与率(%) | 業種 | 前月比(%) | 寄与率(%) |
| 鉄鋼業 | 4.8 | 3.1 | 化学工業 | -89.1 | -42.3 |
| 繊維工業 | 9.2 | 2.1 | 金属製品工業 | -47.8 | -21.2 |
| 印刷業 | 24.0 | 1.5 | 電子部品・デバイス工業 | -12.3 | -12.7 |
| 石油・石炭製品工業 | 40.1 | 1.4 | 業務用機械工業 | -15.6 | -9.6 |
| 非鉄金属工業 | 5.1 | 1.0 | 生産用機械工業 | -51.0 | -7.0 |

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3カ月移動平均値)

(平成22年=100)



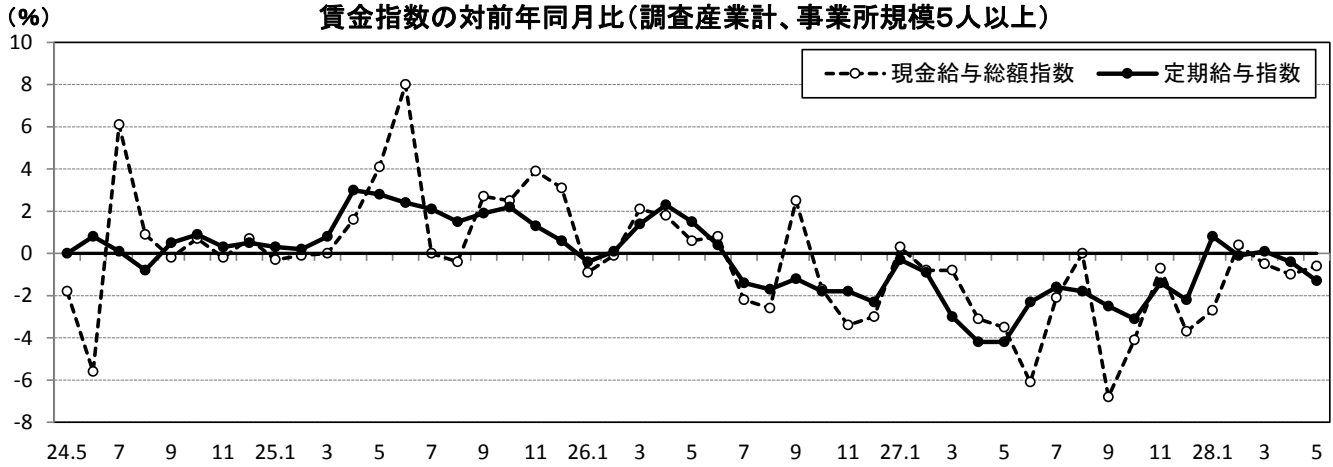
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

平成28年5月の定期給与は211,628円で定期給与指数（平成22年=100）では96.1となり、前年同月比1.3%減と2カ月連続の減（現金給与総額216,672円、現金給与総額指数84.0、前年同月比0.6%減）となった。実額で比較した定期給与の全国対比は82.0となった。

総実労働時間は144.0時間で、総実労働時間指数は93.1となり、前年同月比2.7%減と2カ月連続の減となった。このうち、所定外労働時間は9.6時間で、所定外労働時間指数は105.5となり、前年同月比16.5%減と2カ月連続の減となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」

賃金及び労働時間の動き（調査産業計、事業所規模5人以上）

| | 実 数 | | 指数(H22=100) | | 対前年同月増減率 | |
|---------|-----------|-----------|-------------|-------|----------|--------|
| | 県 | 全 国 | 県 | 全 国 | 県 | 全 国 |
| 現金給与総額 | 216,672 円 | 268,382 円 | 84.0 | 84.7 | -0.6 % | -0.1 % |
| 定期給与 | 211,628 円 | 258,089 円 | 96.1 | 98.2 | -1.3 % | -0.1 % |
| 特別給与 | 5,044 円 | 10,293 円 | — | — | — | 1.5 % |
| 総実労働時間 | 144.0 時間 | 138.1 時間 | 93.1 | 94.2 | -2.7 % | -0.8 % |
| 所定内労働時間 | 134.4 時間 | 127.7 時間 | 92.4 | 93.6 | -1.4 % | -0.7 % |
| 所定外労働時間 | 9.6 時間 | 10.4 時間 | 105.5 | 102.0 | -16.5 % | -1.8 % |

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

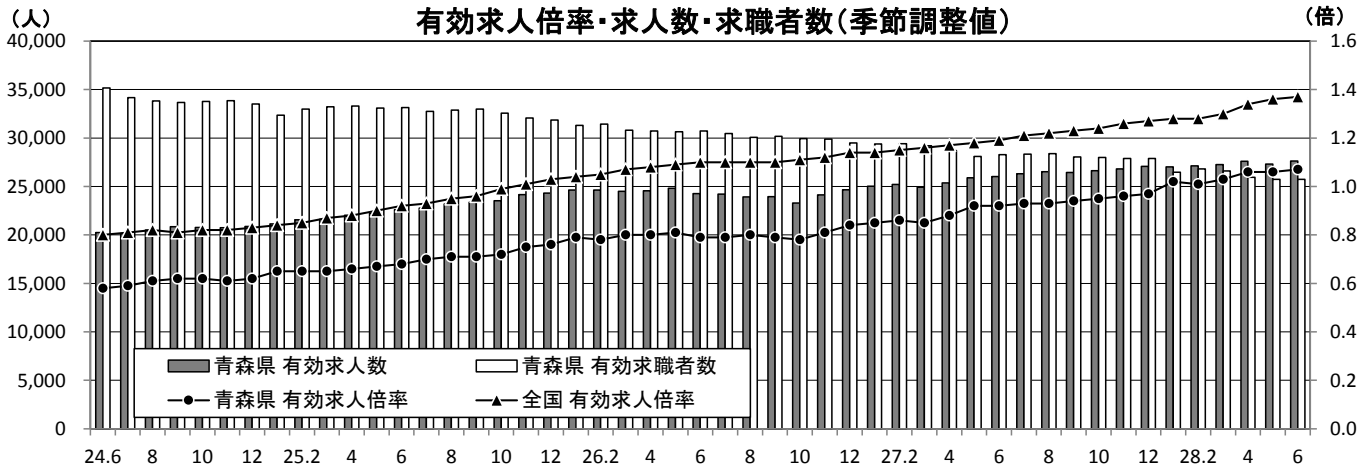
2.前年同月比は指数によって算出している。

3.平成22年1月分から、平成19年11月改訂の日本標準産業分類に基づいて結果の公表をしている。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」

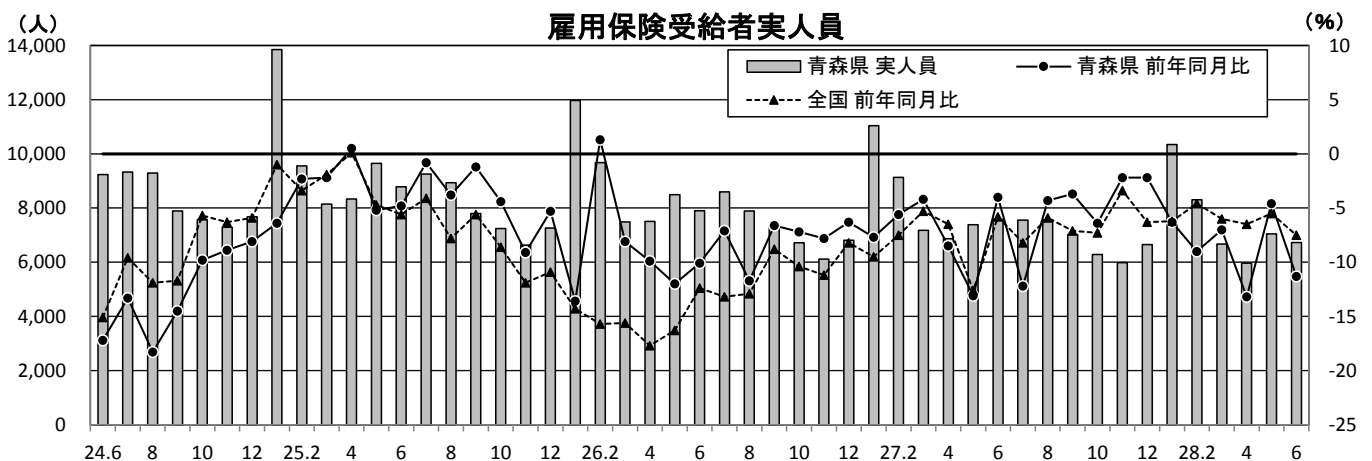
(2-2-2) 有効求人倍率

平成28年6月の有効求人倍率（季節調整値）は1.07倍で、前月を0.01ポイント上回り、過去最高となった。



(2-2-3) 雇用保険受給者数

平成28年6月の雇用保険受給者実人員は6,729人で、前年同月比11.3%減となり、28カ月連続で前年同月を下回った。



(2-3) 物価

平成28年6月の青森市消費者物価指数(平成22年=100)は、総合指数が102.8となり、前月と同水準、前年同月と比べ0.3%の下落となった。

生鮮食品を除く総合指数は102.1となり、前月と比べ0.3%の上昇、前年同月と比べ0.6%の下落となった。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は101.7となり、前月と比べ0.1%の下落、前年同月と比べ0.9%の上昇となった。

総合指数が前月と同水準となった内訳を寄与度でみると、交通・通信(自動車等関係費など)などの上昇、食料(生鮮果物など)などの下落が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ0.3%の下落となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道(他の光熱など)、交通・通信(自動車等関係費など)などの下落が要因となっている。

図1 総合指数の動き

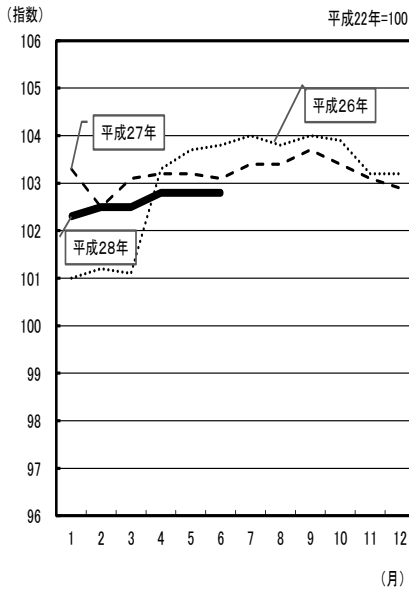


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

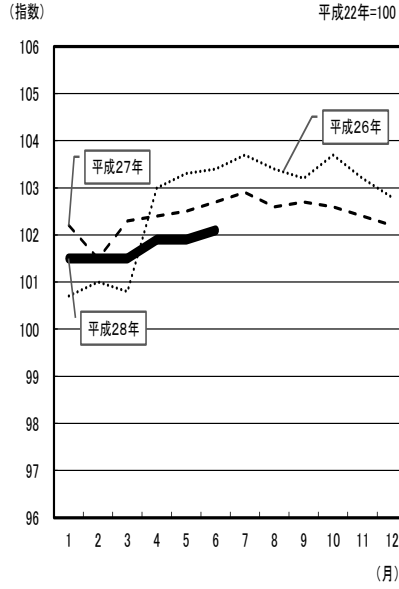
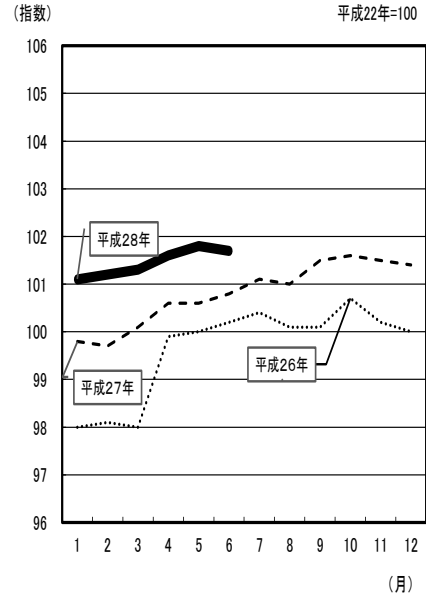


図3 食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成22年=100)

| | 総合 | 生鮮食品を除く総合 | 持家の 帰属家 賃を除く総合 | 食料(酒類 を除く)及 びエネル ギーを除く 総合 | 食料 | 生鮮食品 | 住居 | 光熱・ 水道 | 家具・ 家事用 用品 | 被及履 及び履 | 服 及び履 | 保 険 | 健 康 | 交通・ 通信 | 教 育 | 教 育 | 教 育 | 養 老 | 諸 雑費 |
|------------------|-------|-----------|----------------------|---------------------------------------|-------|-------|-------|-----------|------------------|------------|----------|--------|--------|-----------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 当月指数 | 102.8 | 102.1 | 103.6 | 101.7 | 106.9 | 117.6 | 100.4 | 101.0 | 93.2 | 103.6 | 101.5 | 101.5 | 102.3 | 99.4 | 110.6 | | | | |
| 前月比 (%) | 0.0 | 0.3 | ▲0.1 | ▲0.1 | ▲0.6 | ▲5.5 | 0.0 | 0.3 | 0.8 | 0.0 | 0.5 | 1.2 | 0.0 | ▲0.9 | ▲0.1 | | | | |
| 寄与度 | — | 0.25 | ▲0.04 | ▲0.05 | ▲0.17 | ▲0.29 | ▲0.01 | 0.02 | 0.03 | 0.00 | 0.02 | 0.16 | 0.00 | ▲0.09 | ▲0.01 | | | | |
| 前年 同月比 (%) | ▲0.3 | ▲0.6 | ▲0.4 | 0.9 | 2.4 | 4.2 | 0.6 | ▲10.1 | 2.5 | 2.3 | 0.3 | ▲3.2 | 1.4 | 1.4 | 1.0 | | | | |
| 寄与度 | — | ▲0.53 | ▲0.36 | 0.56 | 0.65 | 0.20 | 0.11 | ▲1.08 | 0.08 | 0.08 | 0.01 | ▲0.42 | 0.03 | 0.14 | 0.06 | | | | |

資料: 県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

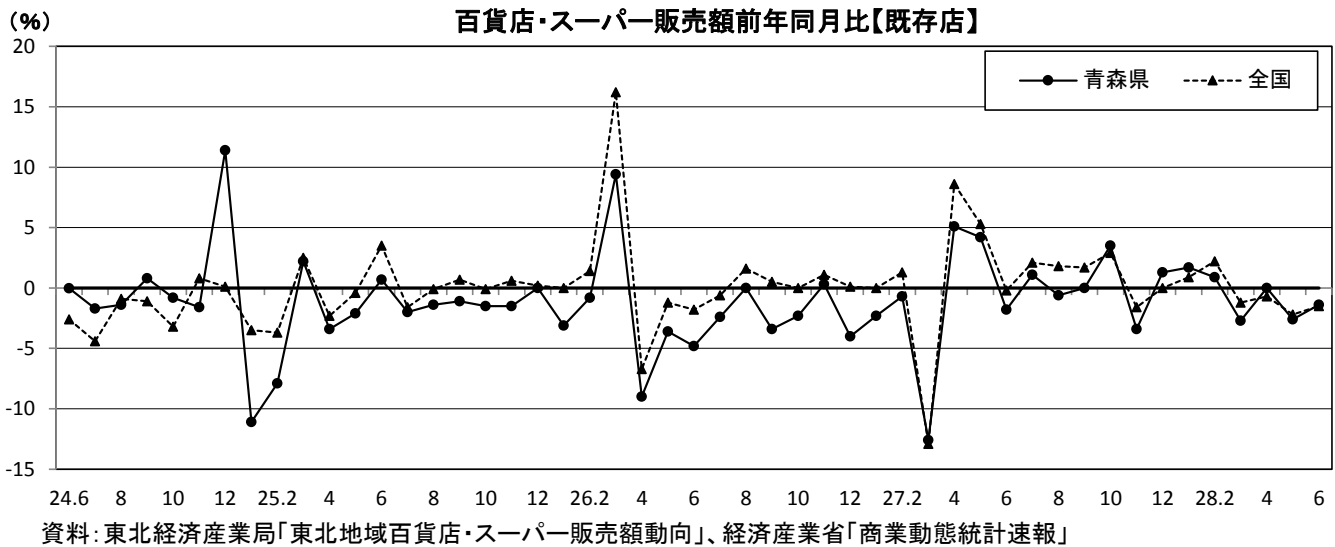
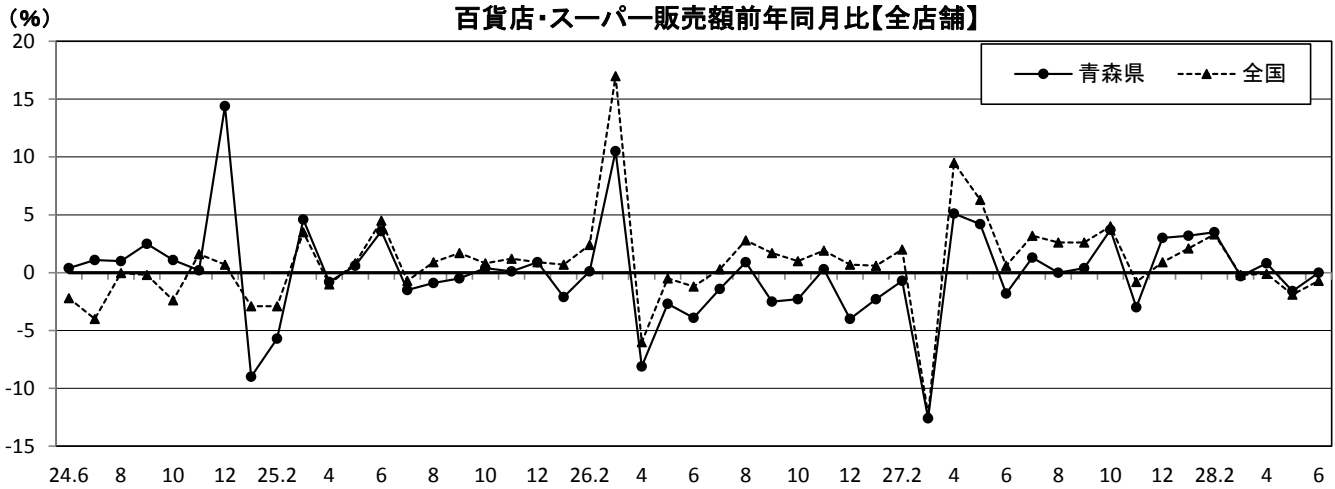
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

(2-4) 個人消費

(2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

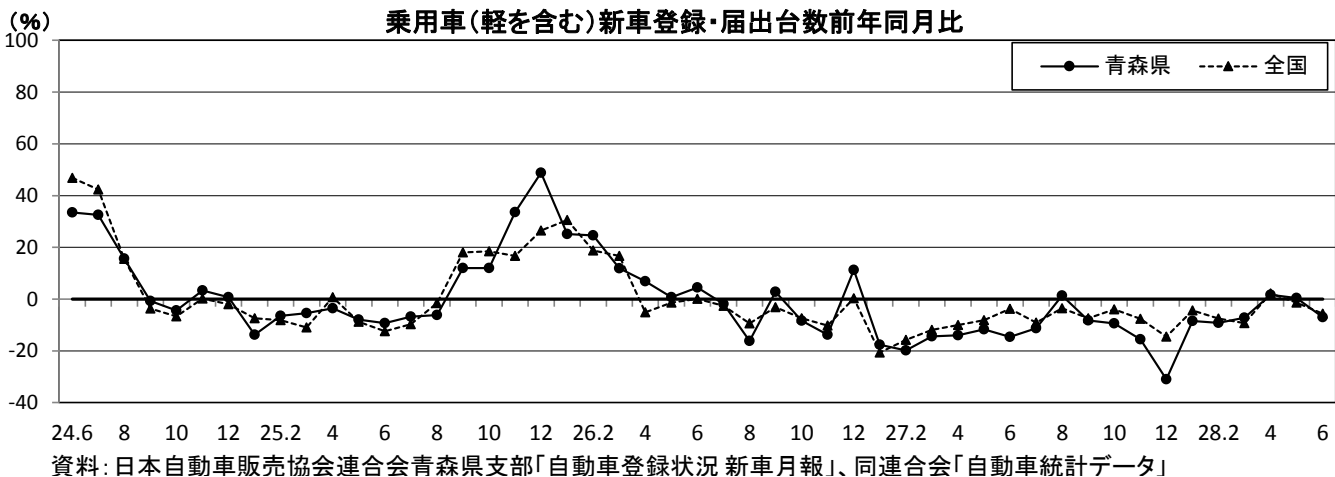
平成28年6月の百貨店・スーパー販売額は、全店舗ベースが133億円で前年同月比0.0%減となり、2カ月連続で前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比1.4%減となり、4カ月連続で前年同月を下回った。



* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

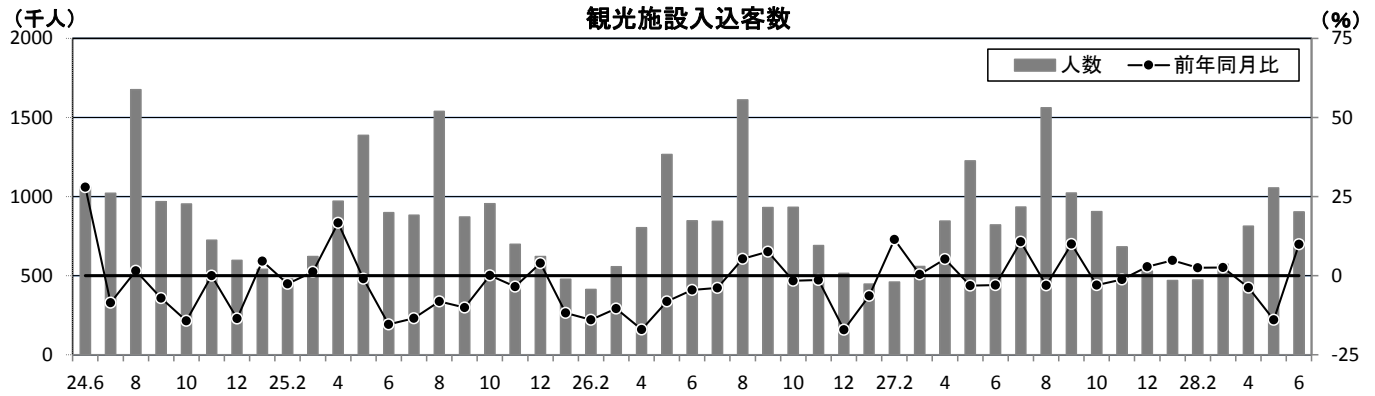
(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

平成28年6月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は3,473台で、前年同月比7.0%減となり、3カ月ぶりに前年同月を下回った。軽乗用車が減少したことによる。

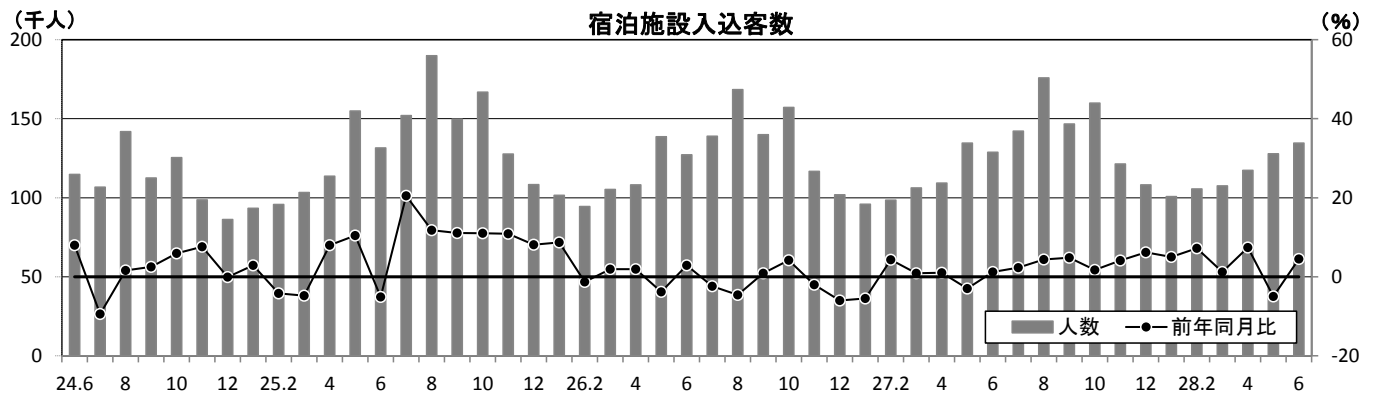


(2-4-3) 観光入込客数

平成28年6月の観光入込客数は、主な観光施設が902千人で前年同月比9.9%増となり、3カ月ぶりに前年同月を上回った。また、主な宿泊施設は135千人で前年同月比4.5%増となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。観光施設は青森市、五所川原市等の施設で増加し、宿泊施設は青森市、弘前市の施設で増加したことによる。



資料：県観光企画課「月例観光統計」※観光施設34施設（H24年1月～H26年3月は35施設、H26年4月以降は34施設対比）

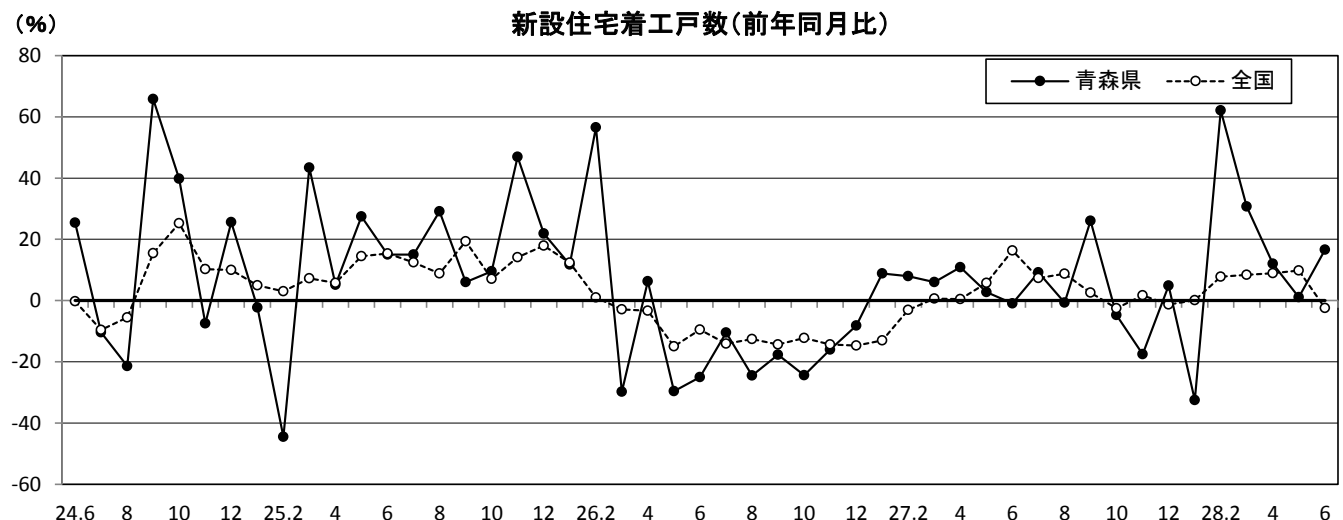


資料：県観光企画課「月例観光統計」※宿泊施設54施設（H24年1～3月は57施設、H24年4～9月は60施設、H24年10～11月は61施設、H24年12月～H26年3月は57施設、H26年4～12月は56施設、H27年1～12月は55施設、H28年1月以降は54施設対比）

(2-5) 建設

(2-5-1) 住宅建設

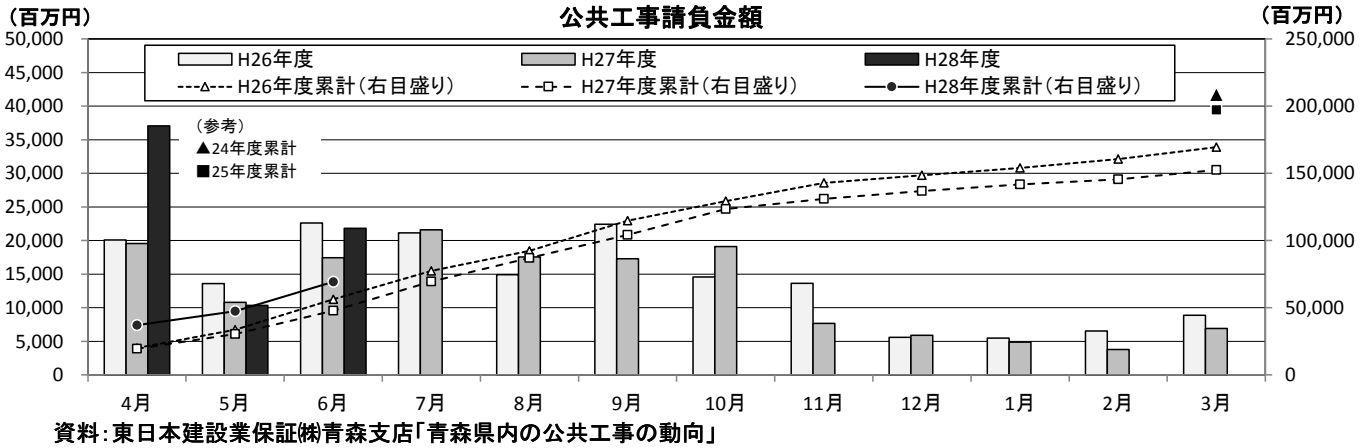
平成28年6月の新設住宅着工戸数は610戸で前年同月比16.6%増となり、5カ月連続で前年同月を上回った。貸家、分譲住宅、持家が増加したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

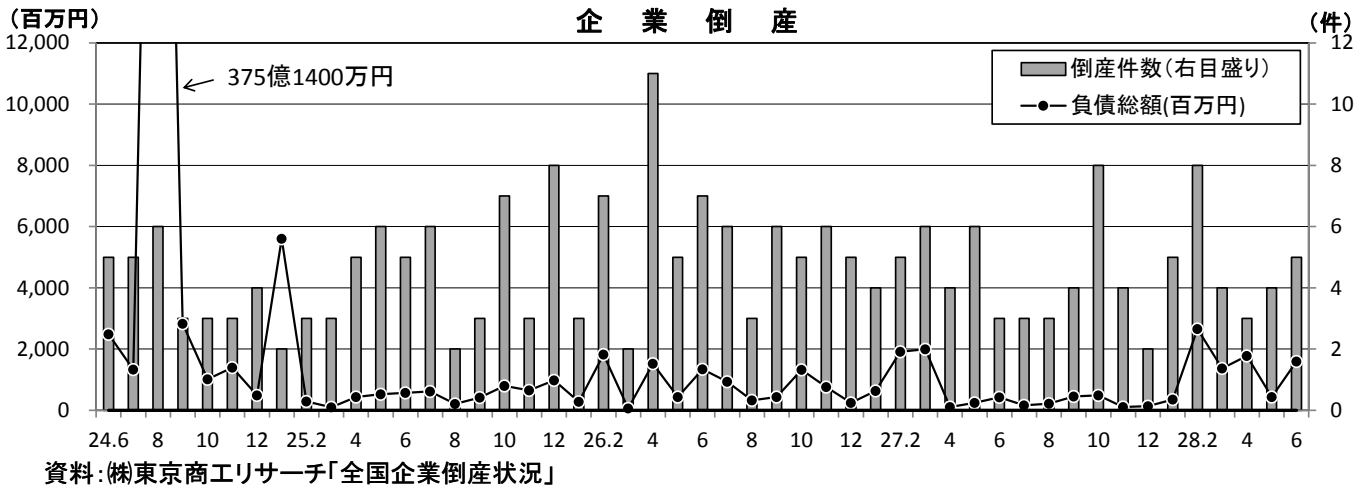
(2-5-2) 公共事業

平成28年6月の公共工事請負金額は218億1,400万円で前年同月比25.0%増となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。市町村、県等で増加したことによる。



(2-6) 企業倒産

平成28年6月の企業倒産は、件数は5件で前年同月比66.7%増となった。負債総額は15億9,200万円で前年同月比270.2%増となった。負債総額の前年同月比は、10億円を超える大型倒産が1件発生したことから増加した。



(3) 青森県景気動向指数

平成28年5月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数 98.0、一致指数 139.8、遅行指数 122.1 となった。

先行指数は、前月を 2.8 ポイント下回り、3 カ月ぶりに下降した。

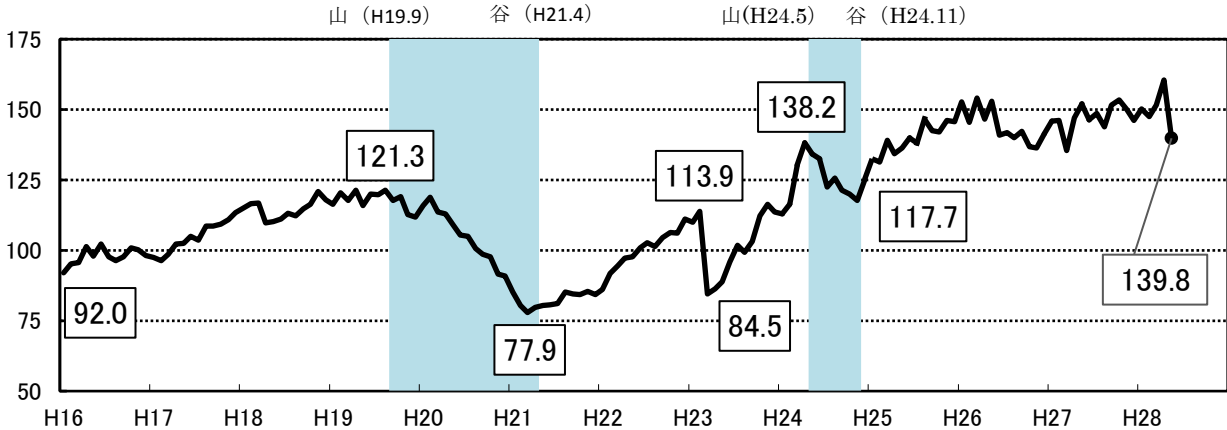
一致指数は、前月を 20.7 ポイント下回り、3 カ月ぶりに下降した。

遅行指数は、前月を 0.3 ポイント下回り、6 カ月ぶりに下降した。

5月の一致指数は生産・消費関連の指標がマイナスになったことから下降した。

景気動向指数（CI一致指数）の推移

(H22=100)



※シャドー部分は本県景気の後退局面

●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

| 寄与度がプラスの指標 | | | 寄与度がマイナスの指標 | | |
|------------------|------|-------|------------------|-------|-------|
| 先行系列 | | | | | |
| 企業倒産件数 | 1.33 | 2カ月連続 | 建築着工床面積 | -1.85 | 3カ月ぶり |
| 日経商品指数（42種） | 0.10 | 3カ月連続 | 中小企業景況DI | -1.48 | 3カ月ぶり |
| 新設住宅着工床面積 | 0.02 | 3カ月ぶり | 新規求人倍率（全数） | -0.72 | 2カ月ぶり |
| | | | 乗用車新車登録届出台数 | -0.32 | 3カ月ぶり |
| | | | 生産財生産指数 | -0.08 | 2カ月ぶり |
| 一致系列 | | | | | |
| | | | 鉱工業生産指数 | -5.88 | 5カ月ぶり |
| | | | 投資財生産指数 | -4.96 | 2カ月ぶり |
| | | | 旅行取扱高 | -3.31 | 3カ月ぶり |
| | | | 所定外労働時間指数（全産業） | -2.32 | 2カ月連続 |
| | | | 有効求人倍率（全数） | -1.72 | 3カ月ぶり |
| | | | 百貨店・スーパー販売額（既存店） | -1.34 | 2カ月ぶり |
| | | | 輸入通関実績（八戸港） | -1.14 | 2カ月ぶり |
| 遅行系列 | | | | | |
| 家計消費支出（勤労者世帯：実質） | 3.03 | 4カ月ぶり | 公共工事請負金額 | -3.44 | 3カ月ぶり |
| 県内金融機関貸出残高 | 0.81 | 2カ月ぶり | 有効求職者数（全数） | -1.03 | 3カ月ぶり |
| 常用雇用指数（全産業） | 0.74 | 3カ月ぶり | りんご消費地市場価格 | -0.63 | 2カ月連続 |
| 青森市消費者物価指数（総合） | 0.02 | 2カ月連続 | | | |

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(参考) 青森県景気動向指数（D I）

| | | |
|------|-------|-------------------|
| 先行指数 | 62.5% | (2カ月連続で50%を上回った) |
| 一致指数 | 28.6% | (14カ月ぶりに50%を下回った) |
| 遅行指数 | 57.1% | (3カ月ぶりに50%を上回った) |

(4) 青森県景気ウォッチャー調査（平成28年7月期）

現状判断DIは、生産・消費活動が一部で活発だったこと等から、前期比2.5ポイント増加の48.3となった。

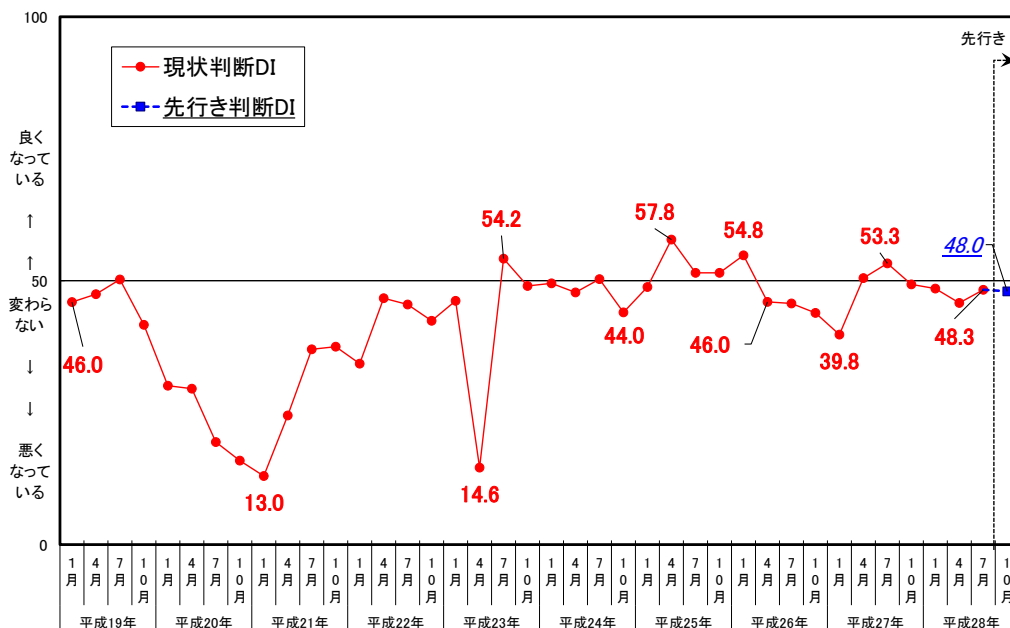
先行き判断DIは、観光シーズン到来等への期待感があるものの、個人消費の低迷や海外情勢の先行きに懸念があること等から、現状判断DIとほぼ同水準の48.0となった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、景気の横ばいを示す50を4期連続で下回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50を3期ぶりに下回った。

(調査期間 平成28年7月1日～7月13日 回答率100%)

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



● 3カ月前と比べた景気現状判断

| | |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 動 向 | <p>前期調査と比べると、「良くなっている」が1.0ポイント減少、「やや良くなっている」が7.0ポイント増加、「変わらない」が2.0ポイント減少、「やや悪くなっている」が3.0ポイント減少、「悪くなっている」が1.0ポイント減少したことにより、全体では2.5ポイント増加の48.3となり、景気の横ばいを示す50を4期連続で下回った。</p> <p>判断理由では、県外観光客の宿泊増加や家電販売が好調などプラス面をあげる声があった一方で、昨年のプレミアム商品券の反動減、百貨店や外食産業の販売不振といったマイナス面をあげる声があった。</p> <p>地区別では、前期調査と比べて、東青地区、県南地区、下北地区でポイントが増加し、津軽地区で同水準となった。</p> |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

● 3カ月後の景気先行き判断

| | |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 動 向 | <p>前期調査と比べると、「良くなる」が1.0ポイント減少、「やや良くなる」が5.0ポイント減少、「変わらない」が1.0ポイント減少、「やや悪くなる」が6.0ポイント増加、「悪くなる」が1.0ポイント増加したことにより、全体では3.8ポイント減少の48.0となり、景気の横ばいを示す50を3期ぶりに下回った。</p> <p>判断理由では、観光シーズン到来による観光客や帰省客の増加、秋に実施される大型経済対策に期待するという声があった一方で、昨年のプレミアム商品券の反動減や個人消費の低迷、為替変動を含む海外情勢への先行き不安を懸念する声があった。</p> <p>地区別では、前期調査と比べて、4地区全てで減少した。下北地区のみで景気の横ばいを示す50を上回った。</p> |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

● 3カ月前と比べた景気の現状判断理由

- 県外客は単価も上昇傾向。但し県内客は状況悪い。(観光型ホテル・旅館=東青)
- エアコン、4Kテレビ、レコーダーの売上が大幅に伸びている。(家電量販店=県南)
- スマートフォン関連部品の受注が増えてきている。(電気機械製造=津軽)
- 着工棟数はあまり変わらないのであるが、1棟当たりの建築面積が一般的にかなり小さくなっている。(住宅建設販売=津軽)
- 日帰り客の売上が多少減っているが、ほぼ変わらず。(観光型ホテル・旅館=津軽)
- 6月は昨年プレミアム商品券で売上げが良く、昨年と比べて今年は下がったものの、4～6月の3カ月間では上昇して終了したので「やや良い」が継続している。(一般小売店=津軽)
- 景気自体は変わらないと思う。八戸は中央から企業が出店することが目立っており、競合他社のみでなく、「力」に負ける地元の企業が増えていると感じる。特に美容院・理容院が激戦区となり、技術を売りにできず閉店している。中央の企業に雇われた方は安定するが、仕事ができない方は大変となり、格差が目立ってくる。(卸売業=県南)
- お客様からの情報等では、あまり変化がなさそうだ。景気のパロメーターである夜の街に賑やかさが無い。(タクシー=県南)
- 一次産品(米、野菜、リンゴ、ホタテ等)の堅調が続いている。また、3月までは公共工事の完工高は下がっているものの工事利益率が上がっているため利益水準が堅調である。値上げに一服感が見られ、外食等一部に安い品が出てきている。(経営コンサルタント=東青)
- 地方において景気という点では、良いとも悪いとも言えない横ばい状態。新規の仕事はほとんどないばかりか、現存の仕事も価格競争させられ利益率は下がっている。(広告・デザイン=県南)
- 季節消費や限定品などの新商品に対する需要は回復した感があるが、日々の定番品の消費については、落ちつき過ぎている気がする。全体としてプラスマイナスゼロ。(飲料品製造=県南)
- 人の採用希望は多く出ているが、他地域と比較し、求人条件、給与等の伸びが少ないと感じる。人材、特に新規人材への投資まで手が回っていない。(人材派遣=東青)
- △ 4、5月の売り上げは昨対比変わらずでしたが6月は激減した。去年は「プレミアム商品券」イベント、街を挙げて実施、売上増進に参加店も同調企画で努力、結果ずいぶん売り上げも上がった分の反動影響と、復興イベント「六魂祭」があったことから準備段階の混然とした雰囲気と大規模な交通規制から私ども業種は思わしくなかった。利益が循環してくることを期待したい。(衣料専門店=東青)
- △ お客様の購買意欲、消費意欲が減少しているように感じられる。(百貨店=津軽)
- △ 八戸の街に買い物に出る人が減少している。外食する人が少なくなっている。(レストラン=県南)
- △ 宿泊部門は前年を上回っているものの、長期契約の団体を除けば前年割れしている状況です。又、宴会部門も相変わらず低調なまま推移している。(都市型ホテル=下北)
- × 観光客が少ない。(タクシー=下北)

● 3カ月後の景気の先行き判断理由

- お盆や祭りで帰省客が増えることを期待して。(ガソリンスタンド=下北)
- 政府が秋に行うとされる大型経済対策に期待。(広告・デザイン=東青)
- 例年以上の暑い夏が予想されているので、飲料を始めとした季節商品やまつり関連用品の売上げ増を期待したい。また、JRの青森県・函館DCも追い風になるのではないかと。(新聞社求人広告=津軽)
- ネプタも来るので良くなるとは思いますが、六魂祭があったのでその反動もありそうな気がします。全体的に上向きになるステップのはずの六魂祭があまり芳しくなく、つまづいている感じです。(一般飲食店=東青)
- 政治に対する不信感が強く、将来に不安を持つ方が多くなっている気がします。(美容院=東青)
- これから夏休みやイベントなどで来青するお客様が増えるとは思いますが、あまり大きな変化はないと思います。この景気の良くない状況はしばらく続くと思います。(タクシー=東青)
- 景気が良くなる素材なし。(衣料専門店=津軽)
- 消費税10%の増税延期となっても、やはり8%に上がってからお客様の財布は緩まない。とりあえず、延期となっても引き締めていこうかと考えている。遠い英国の事などもあり、景気に対しての警戒感から決して財布を緩める気にはならないと思う。(卸売業=県南)
- 地方はアベノミクスの効果も薄く、景気回復の実感が乏しい。極端消費や二極化と言われるように消費は一進一退の局面が続いていると思われる。(百貨店=県南)
- 観光シーズンを迎えて、宿泊・宴会とも予約が伸びていない。(都市型ホテル=下北)
- 求人条件を見直し、給与まで手をかけた採用を考えている企業は少ない。(人材派遣=東青)
- △ 民主党政権時のような極端な景気の悪さは感じないが、実質賃金が上がりず来店客数が減っていることから、個人消費はジリジリと下降するのではと心配です。(衣料専門店=東青)
- △ 価格に対して非常にシビアになっている。生活の余裕が感じられない。(住宅建設販売=津軽)
- △ 去年は6月末からプレミアム商品券の影響が秋まで続いたが、今年はそれが無いので。(一般小売店=津軽)
- △ イギリスEU離脱や国際テロ犯罪等により不安要素が後を絶たない状況になり、企業等も投資に慎重になるため。(乗用車販売=県南)
- △ 円高傾向による受注減少が考えられる。海外の顧客は為替に敏感です。(電気機械製造=県南)

記号の意味:◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」